西東京市市民協働推進センター

平成 27 年度第 5 回運営委員会会議録（確定稿）

■開催日時：平成 27 年 9 月 15 日(火)午後 7 時 00 分～9 時 00 分
■開催場所：下宿地区会館
■出席委員：池田委員、伊藤委員、熊田委員、紺野委員、坂口委員、佐藤(文)委員、佐藤(留)委員、鈴木委員、田中(紀)委員、谷委員、富沢委員、中村委員、藤江委員＜以上 13 名、五十音順＞
■事務局　：内田センター長、佐藤副センター長、丸木福祉活動推進課長、石井地域福祉推進係長、塚澤主事

1. 報　告　事　項

1. 業務報告について

事務局より、7・8 月期の主催事業、その他事業、ホームページアクセス数、新規登録団体、市民活動相談の状況について説明があった。

委員長：質問はないか。特になければまちづくり円卓会議（以下、円卓会議）としては終了したので、参加していた委員から感想を聞きたい。

委　員：円卓会議で評価できる良かった点は、児童養護施設で開催したことである。これはゆめこらぼならではの活動であり非常に意味があった。会議メンバーは 8 人ほどだったと思うが、5 回の開催を通して欠席者は 2 人ほどしかいなかった。これほど欠席者が少なかったのには、日程調整などを行った事務局の努力の成果だと思う。残念な点では、年度が切り替わった関係か、途中でファシリテーターが替わったことで、課題として残るのではないか。円卓会議の結論が学校で「放課後カフェ」の開催を、となったのは、メンバー構成でそうなったのだと思う。

委　員：放課後カフェについて詳しく知りたい。

事務局：対象は中学生で、学校の中で授業が終わった後に飲み物などを出した、ゆるーい雰囲気の場の提供である。「来たければいらっしゃい」というような場所を設けることでコミュニケーションの場を作っている。現在は育成会の予算のなかで、田無一中でも継続してやっていくようだ。青嵐中でも始めるという方向で動き始めている。

委　員：マンガやゲームなど普段学校にはおいていないものもある。開催時間は 2 時間くらいで下校する前に立ち寄れる場として開催している。

2. 9 月以降の事業について

事務局より、9 月の実施事業などについて説明があった。

委員長：質問はないか。

委　員：ひまわりプロジェクトを引き受けたが、人手とか負担ではないのか。

事務局：実態はひまわりプロジェクトの 8 人が回している。今まで協働コミュニティ課が行っていた事務処理を肩代わりしてやっているので、それほどの負担ではない。

2. 審　議　事　項

1. 会議録について

委員長：今週末までに意見がなければ確定稿とする。

3. 協　議　事　項

委員長提案で、議題の協議順番を入れ替えた。

1. 地域デビュー・シリーズについて

事務局より地域デビュー・シリーズ第4弾・第5弾企画案について説明があった。

委員長：本来はこの企画案は8月の運営委員会で協議するものであったが、8月は運営委員会がなかったため、この企画内容が既に公開されていることもあり、企画自体は変更できない。それを前提として意見はあるか。雨天決行なのか。

事務局：雨天でも決行する。

委　員：ツアーガイドは誰が行うのか。

事務局：名所旧跡を訪ねるのではないのでスタッフが行うが、見学する市民活動団体拠点では各団体の方に説明をお願いしている。

委員長：地域デビュー・シリーズの基本的な対象者は中高年であるが、対象者の絞り込みの重視をしなくてよいのか。市内在学とあるが高校生とか来てしまう可能性もあるのではないか。絞り込んだ形で同年代の方との交流を含め地域デビューに持ち込むという方向性であれば、チラシの打ち出し方を考えなくてはならないのではないか。当初の目的とかい離してはいないか。この企画の目的は、団塊世代の方々が65歳になり地域に根差してデビューするための支援であるのならば、この表記だとただの市民講座になっているのではないか。

事務局：狙いはあきらかに中高年であるが、あまりにも対象者を絞ってしまうことで参加者が数人しか来ない時もある。

委　員：「農のあるライフスタイルを考える」で収穫体験となると子供も含めた家族で参加希望する人に対し、受付できないとは言えない時がある。その場合の対処を考える必要がある。

委員長：「まちめぐり」も、ウォーキングがブームなので30代40代の応募者も考えられる。当日の内容なり対応を考える必要があるのではないか。本来の意味あいとは違うと考える。

委　員：おとぱの流れで定年退職をした人を地域デビューさせようという趣旨は分かるが、ゆめこらぼをもっと知ってもらうきっかけとして対象者を絞らない公募もあると思う。若い方にももっと地域を知って繋がってもらいたい。例えば、30代の方が参加したことがきっかけとなり地域活動を知ってもらい参加につながることもあると思う。最初のコンセプトでの60代後半に絞ること自体を考え直すのも良いのではないかとも思う。

委　員：広報に「お父さんおかえりなさいパーティ」という文言を入れれば、対象者を明記せず中高年が対象であるとわかるのではないか。チラシを作る段階で、対象者は誰でもよいではなく対象者をがっちり絞ることで、結果は違うのではないか。

委員長：対象者を絞り込まないのであれば、作りこみを変えなければならない。みんなを呼ぼうとすると誰も来ない。その意味で絞り込みは大切だと考える。広報が開始しているということであれば、あまり良いことではないが、参加者を見たうえで企画をどう変容させるかを考えていく必要がある。本来、来てほしい方のいる場所へ如何に広報するかを考える必要がある。例えば、ウェブサイトなどで本来の対象者に関してコメントするとか方法はあると考える。

委　員：退職者の方々には、どういうところでPRが届くのか。どういう場所で配布するのか。

委員長：大企業が早期退職や再雇用された方々の次の居場所を探しているので、大企業の社会貢献部等に連絡をとり、イントラネットに流してもらうという方法もある。地域の中だけでPRを考えないほうが良いと考える。

委　員：広報戦略として、対象年齢の方は新聞をよく読んでいる世代なのでメディアに取り上げてもらうような働きかけをするのもよいと思う。
委　員：60歳代が介護世代で、介護施設の利用者は地元が多いため、そこでPRするのもよいと思う。
委員長：メディアにリリースしていただくために、徹底してチラシに売り文句をつけて送付する必要がある。

2. 第7回NPO市民フェスティバル事前説明会(案)について

事務局より第7回NPO市民フェスティバル開催概要の企画案について説明があった。

委員長：質問はないか。
委　員：展示参加では、各団体から誰か一人は出るようにするのか。
事務局：お願いしている。今回は全体を把握しているコンシェルジュを置く予定である。展示は分野別に日程を分け展示する予定である。
委　員：パフォーマンス用のいすが18脚あるようだが、数は足りるのか。
事務局：来訪者のほとんどの方は座らないと聞いている。当日プログラムを用意するのでパフォーマンスや展示を見る方はあくまでも流動的と考える。ステージ進行および音響はかなり難しいと予想されるためFM西東京に依頼する予定である。
委　員：昨年は何団体参加したのか。
事務局：44団体参加している。
委　員：ペデストリアンデッキで何ができるのか。
事務局：ペデストリアンデッキの活用については市の道路管理課に企画書を出して了解を得なくてはならない。利用に関してご希望があれば事前に申し出てほしい。
委　員：チラシコーナーのテーブル2つは数がないからか。
事務局：スペース的に人の通行を妨げたくないので数を制限している。
委　員：チラシラックを使うことはできないのか。
事務局：購入すればできると思うが、予算がない。
委　員：アスタの中の広報はやるのか。開催が冬なので、アスタ内部にいる人に対して広報をし、引きこむのが効果的ではないか。
委員長：当日広報と事前広報を今後別途に協議したい。

3.広報戦略について

事務局より、リーフレットとセンター広報用キャッチコピーについて説明があった。

委員長：デザインは専門家に依頼するのか。
事務局：レイアウトは印刷会社に任せることになるが、デザインの専門家に依頼することは今のところ考えていない。
委　員：予算はいくらか。
事務局：8万円で5000部作成する予定だ。
委　員：デザインを頼める余地は十分あると思う。
委　員：事務局案では、リーフレットのサイズはA4四つ折りか。
事務局：A4プラス3分の一と若干大きくなる。資料をご覧いただきたい。
委　員：人の顔があるとか、物語性があることで、楽しい暖かい感じのリーフレットになるのではないか。構成する時に暖かい感じでストーリー性のあるものが良いと感じる。

委　員：一概には言えないが、ゆめこらぼへの登録団体数や分野を明記するなどの情報を入れることで、イメージが沸くような仕掛けがほしい。

委員長：リーフレットは固定情報として、その中に分野別団体情報などを挟み込むこともできる。

委　員：利用者の声や体験談を盛り込んではどうか。箇条書きで良いので利用者の一言を入れてはどうか。暖かさや信頼感も伝わると考える。

委員長：大前提として今までと違うのは、リーフレットはゆめこらぼに来た人に持ち帰ってもらうのではなく、出張って行って配布するということが前提となっていることは絶対に外せない。

委　員：あつまる、つなげる、ささえるとキャッチコピーが並ぶとメッセージがぼやけると思う。また、3 つの理念と 6 つの事業とあるが、硬い印象を受ける。訓読みの柔らかい感じの事業をあらわす言葉に変えないと硬いイメージととられる。

デザインの力は大きいと思うので印刷費を抑えてデザインに予算を回し、色とかイラストでわかり易くする方が良いと考える。

委　員：キャッチコピーを選択するにあたり、ゆめこらぼと西東京市市民協働推進センターの使い方として、どのように使うかを考える必要があると思う。

委員長：リーフレット案にご意見がある方は事務局にメールで連絡してほしい。キャッチコピーは仕組みを考えるので、投票にしたいと思う。これを多数決で選ぶかどうかは事務局判断にしていただきたい。資料を参考にしていただき投票することとする。

4. そ　の　他

1. 次回運営委員会日程について

日時：10 月 20 日（火）19 時～21 時

会場：下宿地区会館